

公共工事における総合評価落札方式の

評価配点についての考察

平成22年2月 森 美奈

要旨

目的

公共工事の入札は従来、最低価格落札方式であったが、財政状況の悪化に伴い価格競争が激化し、ダンピングや不良不適格業者の参入などから公共工事の品質低下が問題となった。その対策として、価格と価格以外の評価を行う総合評価落札方式を適用し、公共工事の品質確保・向上を目指した。しかし、重要な評価項目・配点の決定については明確な規定はなく、工事ごとに決定しなければならないという現状である。そこで、本研究では総合評価落札方式における評価値に価格以外の評価が反映される評価配点の考察を行なう。

方法

受注者の技術努力に応じた入札価格を定式化し、それに基づいて総合評価落札方式において除算方式と加算方式で評価値の算出を行い、評価配点について考察する。

特徴

評価配点の決定にあたって受注者の立場から入札額を考え、工事価格以外の技術開発による入札額の高騰も考慮し、受注者が技術力を高めるインセンティブとなるような評価配点の検討を行なっている。

結論

技術評価配点を高くすれば、技術努力のインセンティブとなるが、除算方式は価格評価の影響が強く、技術評価配点を価格配点の5割近くまで高めなければ技術努力が報われる評価値は得られない。加算方式においては、技術評価値の3割程度で技術努力が評価値に反映されると思われるので、今後の方針として除算方式の技術評価配点を大幅に上げるか、除算方式から加算方式への変更が望ましい。

指導教員 小山 茂 准教授